



# 東京全労協

2012年6月28日 47  
東京都港区新橋6-7-1  
川口ビル6F  
TEL. 03 - 5403 - 1650  
FAX. 03 - 5403 - 1653  
発行人 纈纈 朗  
定価 1部 10円

## オスプレイの配備を許すな！ 普天間基地を即時閉鎖しろ！

### 5・15沖縄平和行進に参加

今年沖縄は、1952年に沖縄と本土を分断し、沖縄を米軍統治に売り渡したサンフランシスコ講和条約締結から60年、そして、1972年の施政権返還「本土復帰」から40年を迎えました。

今年も東京全労協は、東京労組と共催して総勢40名の部隊で、1978年に、復帰後も変わらない基地の島沖縄の内実を問う平和運動として始まった、第35回目となる5・15沖縄平和行進に参加しました。

平和行進に先立つ11日は、北部東村の高江ヘリパッド建設反対と名護市辺野古の新基地建設反対の闘争現地に駆けつけ、緊迫した報告を聞き、参加者のカンパを手渡しました。

今年も、いつもの東コースから、沖縄戦の歴史的教育を学ぶ「南コース」に変えての参加でした。

12日は糸満市摩文仁の丘「平和の礎」を出発し、67年前の沖縄戦の足跡をたどりながら、基地のない平和な島沖縄を取り戻そうと訴え、最終日の13日は、南北から普天間基地を包囲するコースの南ウイングを歩き、

2004年8月に米軍ヘリが墜落炎上した沖縄国際大学の前を通り、炎天下の二日間を歩き抜いて「復帰40年 5・15平和とくらしを守る県民大会」に参加しました。

梅雨の晴れ間の灼熱のなかを、歩くと言うより駆け抜ける厳しい平和行進となりましたが、オスプレイ配備、先島への自衛隊配備等により、さらに沖縄を軍事基地化へともくろむ日米両政府を許さない、沖縄県民の強い怒りを肌で感じ取った行動となりました。

戦後67年が経過した今なお、沖縄を「基地の島」の鉄鎖につなぎ、対米追従の「日米同盟深化」で軍備増強という危険な道に踏み込む野田民主党政権に対する、私たち一人ひとりの東京における行動が問われています。



2012年5月12日基地のない平和な沖縄を取り戻そうと訴えた

## 工場閉鎖攻撃をはね返せ

### 団結権を侵害する 分割化に反対！

日頃のデイベンロイ闘争へのご支援本当に有難うございます。

都労委で和解の方向で話を進めていますが会社は17名の雇用を確保すると約束しながら到底受け入れられない営業部への配置転換命令の辞令を出したり、女性組合員に重い物を持たせる職場への配置転換命令を出したりと一方的に会社の考えを押し進めようとしていました。

また、120名の希望退職募集に対し117名の希望退職者が応募したデイベンロイ大森では人手不足や会社の無策により大きな混乱が出てきています。

クリーニングの集配を受け持っている営業部にも欠員が生じ回れる人がいない状態。工場閉鎖により完全外注化を狙うも残らざるを得ない仕事の引き継ぎを誰も行わない為、仕事が回らないという大混乱。これは全て会社の責任です。

これに対し支部は一方的な辞令を認めず職場ミーティングへ経営者を引っ張り出し17名の現状の職場を認めさせ、女性組合員に対し重い物を持たせることをさせない。などの約束を引き出しました。

## デイベンロイの闘争報告

しかし、会社は本社機能分離し品川区の立会川に物件を借り引っ越しをしようとし、組合の言い分(17名の現在残っている仕事)をのむので、本社機能の引っ越しを行いたいと言っていました。

事前協議も一切行われなままの分離は認められない筈がありません。会社は都労委での和解はポーズばかりで裏では組合潰しを着々と進めようとしているのです。

営業部との団結と17名の実質的な雇用確保を求め闘います。  
デイベンロイは前々期、前期と2期連続赤字となり、組合は労働条件の切り下げ



2012年4月6日会社側に対し工場閉鎖反対と解雇反対を訴えた

に同意しながらも雇用確保に努めてきました。しかしこの事により営業部は長時間労働に陥り、過労死寸前の劣悪な労働条件、工場閉鎖により多くの仲間が退職を余儀なくされたのです。

我々には営業部にも組合員がいます。営業部の未払い残業代請求を行い、工場組合員の17名との団結を図り会社の分割の方針による組合潰し政策に反対し、皆が働ける場を要求し闘います。

都労委での和解は決裂するかも知れません。会社が組合との協定無視を続けるのであればやむを得ません。お願いや譲歩では労働者の生活と雇用は絶対に守られません。

デイベンロイで組合員を増やし、会社の無策による社員を切る

ことしか考えていない経営姿勢を正す事は我々の労働条件を守ることを守るだけでなく、すべての闘う労働者の皆さんの為にもの思いの思いで闘います。これから、皆さんのご指導ご支援をお願いします。



# 働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう

## 第83回日比谷メーデー開催

5月1日、第83回日比谷メーデーは、久しぶりの平日開催となりましたが、会場の日比谷野外音楽堂に約8000名が集結し、成功を勝ち取ってきました。

メインスローガンを「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう」とし、「東日本震災の被災者の救援・復興とともに連帯し全力をあげよう」「すべての原発を即時停止し廃炉へ、原発依存のエネルギー政策の転換を」と訴えました。

主催者挨拶を鎌田博一（国労東京委員長）が行った後、武藤都労連委員長の連帯挨拶を受け、来賓挨拶を前田東京都産業労働局長と福島参議院議員・社民党首から受けました。



決意表明は、郵政労働者ユニオンの女性労働者、全国一般東京南部の外国人労働者、福島県平和フォーラム、JAL原告団から受けました。

続いてアピール文を全体で採択し、金澤全労協議長の「団結がんばろう」で終了しました。

その後デモに移り、土橋コースでは経済産業省前で、鍛冶橋コースでは東京電力本社前で、「脱原発！再稼働反対！廃炉へ！」などのシュプレヒコールを行いました。

引き続き、メーデーを「闘いの広場」と位置付け、統一メーデーの実現を求めていきます。

### 三多摩地域での労働争議

5月～6月は、審問と新規労働委員会申立が続きました。

5月24日、6月7日と西武バス、兼務手当廃止による賃金請求事件の東京地方裁判所立川支部における審問がありました。

西武自動車（子会社）が西武バス（親会社）に吸収合併されるにあたり、賃金減額に反対する組合員らは「子会社の労働条件」で「暫定適用」となりました。

ところが、何故か、事務員兼運転手の組合員だけが、同意なく「兼務手当月3万円」が減額させられたので、提訴したものです。

西武バス争議では、6月18日に、労働委員会の組合側主尋問もありました。事務員訴訟と重なる部分も多

いこの労働委員会申立は、「唯一交渉団体」との労使協約を持つ御用組合と西武バスとの従業員支配を継続を目的とした中立保持義務違反から派生している不当労働行為の様々な態様の救済命令請求です。

証人7人をギョツと2時間詰り込んだ中身の濃い審問となりました。次回は7月18日に組合員に対する反対審問です。

5月30日には生活クラブ生協と奥井組（運輸会社）



2012年5月30日奥井組社前行動

に対する不当労働行為事件2件の申立を行い、奥井組に対する抗議行動を行いました。この様子はYouTubeにアップしてあります。

奥井組は典型的な2代目社長のワンマン経営で、組合が結成されるまでは、誰かが事故を起こすと「連帯責任」で皆のボーナスがカットされたり、黒字決算でも前年対比赤字を理由に賃金が勝手に減額されたりしていました。

組合結成後、改善されてはいますが、残業代未払いと賃金は正を巡る交渉途中で、運動日報の「待機」が「休憩時間」に改ざんされた事件が発覚しました。

従業員は黙って会社の言う事を聞くもの、という事が常識であった会社に対して、意見を言う労働組合との誠実な付き合い方を学ん

でもらうには時間も労力もかかりません。そして労働争議はその為の大切なステップです。多くの支援をよろしくお願ひ致します。

### 南部ブロックの活動

南部全労協は、毎年電検労のみなさんと共に「南部権利春闘」を立ち上げ闘っています。この「南部権利春闘」は、春闘期に限らずほぼ通年で活動をしていきます。毎月の幹事会では、それぞれの組合で起きている出来事や闘争の現状などを報告しお互いの経験を交流しています。

4月12日には、南部権利春闘主催でデイブローイの闘いを共に闘うために担当の堀弁護士を招いて春闘集会をおこないました。ちょうど会社側の希望退職をめぐる攻防戦が始まり、東京都労働委員会での審問が行われている只中でのこの集会は、デイブローイの闘いに向けた大きなステップとなりました。

また、JAL不当解雇撤回の闘いやベルリッツの組合敵視にたいする第一審勝利判決を受けた第二審闘争など地域の課題を確認しました。

この他に今地域で闘われている課題は、大田区で採用された育鵬社版歴史・公民教科書に対する闘い、反原発の1000万人署名を集める運動などの脱原発に

向けた闘いがあります。そしてこれら全ての運動は、南部権利春闘に結集する労働組合だけではなく、地域のほかの団体との共同した取り組みとして行われています。

脱原発では、大井町のきゅりあんで4月20日「許すな再稼働、原発よりのちがだいじ、原発なくても大丈夫」を掲げて南部地域の港・目黒・品川・大田の労働組合や市民団体が集まり650人を集めた集会を行いました。

これからも南部全労協は、電検労のみなさん、そして地域のみなさんと共に、脱原発・反失業そして闘争勝利をめざして闘います。

### 7・21横田基地ツアーに参加しよう！

東京全労協と全国一般東京労組で「米軍横田基地ツアー・学習会」を企画。日程7月21日、16時30分まで。事前予約が必要です（東京全労協まで）。視察ルート・立川駅～砂川立川基地～横田18ゲート付近など

### 脱原発社会をめざす8・12労働者集会に多くの参加を！

「脱原発社会をめざす8・12労働者集会」  
日程 8月12日、13時開場  
場所 ティアラこうとう（江東区）。多くの労働者を結集させよう！

## 7.16集会 代々木公園を「脱原発」の人垣で埋め尽くそう

全くあいた口がふさがらないという表現がびつたりの「大飯原発再稼働決定」。「国民のために」とか、「この国が立ち行かない」等と口から出まかせの方便を弄して、再稼働を決める野田政権を許すことはできない。

しかし、一方、政府が再稼働ありきで突っ走ることを許しているのは、脱原発の闘いがまだまだ不十分であるからに他な

らない。大江健三郎氏ら9人の呼びかけによる1000万人アクションの署名がもう一歩目標に届いていないことを見てとっているのかもしれない。

私たちは、今こそ脱原発に舵を切らせるためにも、もうひと踏ん張り、運動の高揚を作り出し、かつ継続的な運動として取り組んでいくことが重要だ。

6月6日の署名集約集